

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	学習指導と学校図書館	後期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-望月 道浩	3年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>司書教諭（学校司書）として、学校図書館をベースとしながら各種メディアを活用した学習指導を計画・実施するための学習論と教育方法について解説するとともに、マイクロ・ティーチングを通して指導方法を実践的に考究することをねらいとする。</p>	<p>「学び方を学ぶ」学校教育のあり方が問われています。学校図書館は、生徒が学び方を考えるためだけに活用されるものではなく、教員が学びをつくるうえで、教材研究や教具作成にも役立つように、校内の「学習センター」、「情報センター」としての機能を整えておく必要があります。司書教諭（学校司書）として、理論と実践を考究し続けたい思いをもったみなさんの受講を期待します。</p>
到達目標	<p>(1)教育課程の展開と学校図書館との関連について理解する。 (2)メディア活用能力育成のための指導内容について理解し、実践できる。 (3)生徒の学び支援、教員に対する授業づくりへ寄与するためのレファレンス支援ツールなどの作成ができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) オリエンテーション「本科目の概要について」	シラバスを読み授業に備える
	2	(特) 学校図書館メディアの意義	「学校図書館図書標準」の確認
	3	(特) 学習活動と学校図書館	調べ学習体験の共有のための準備
	4	(特) メディア活用能力の意義と目的	参考文献①の第4章
	5	(特) メディア活用能力の指導内容の具体例（1）	非線型テキストの分析報告の準備
	6	(特) メディア活用能力の指導内容の具体例（2）	非線型テキストの分析報告の省察
	7	(特) メディア活用能力育成の計画	参考文献②・③の総則部分の確認
	8	(対) メディア活用能力育成の展開	参考文献④・⑤の確認
	9	(対) メディア活用能力育成に関わる評価	評価規準の作成参考資料の確認
	10	(対) レファレンスサービス(1)：内容	調べ学習のための書誌作成の準備
	11	(対) レファレンスサービス(2)：実際	調べ学習のための書誌作成の準備
	12	(対) レファレンス資料の整備	作成した書誌の報告と省察
	13	(対) ネットワークの活用	レファレンス支援ツール作成
14	(対) 学校図書館活用マイクロ・ティーチング(1)	MTの事前準備	
15	(対) 学校図書館活用マイクロ・ティーチング(2)	MTの事後省察	
16	(特) レポート	レポートの提出	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは指定せず、プリントを配付します。また、以下の参考文献を挙げておきます。 ①『メディア・リテラシー：世界の現場から』（岩波新書：新赤版：680）菅谷明子著、2000年、864円。 ②『中学校学習指導要領』文部科学省著、東山書房、2015年、332円。③『高等学校指導要領』文部科学省著、東山書房、2015年、719円。④『言語活動の充実に関する指導事例集—思考力、判断力、表現力等の育成に向けて 中学校版』文部科学省、2012年、605円。⑤『言語活動の充実に関する指導事例集—思考力、判断力、表現力等の育成に向けて 高等学校版』文部科学省、2014年、1,620円。</p>		
学びの手立て	<p>1)4月に開催される「学校図書館司書教諭課程オリエンテーション」に必ず参加し、司書教諭科目の取得方法、履修の順序などを確認した上で履修してください。 2)「学校経営と学校図書館」科目で学修した内容を振り返っておくことが望ましい。 3)第14-15回に予定しているマイクロ・ティーチングについては、図書館4階学習室で実施する予定です。これについては、あらためて講義内で指示します。</p>		
評価	<p>1. 授業内容に関するリアクションペーパー 20% (到達目標1の評価) 2. グループ活動などにおける参加 20% (到達目標2及び3) 3. 最終課題 (レポート) 60% (到達目標1、2、3の評価) (1)引用・参考文献の明示 30% (2)論点を整理した記述 15% (3)学校図書館メディアの利活用に対する考察の深まり 15%</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本科目は、司書教諭資格「読書と豊かな人間性」科目と相互に関連のある科目です。学習指導と読書指導（読書活動）のあり方について考察を深めてください。また、レファレンスサービスの内容にかかわって、司書教諭資格「情報メディアの活用」科目でその実際について学修を深めてください。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	学校図書館メディアの構成	前期	火6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-望月 道浩	3年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目は、司書教諭（学校司書）として学校図書館メディアの種類と特性を知り、さらに、よりよい学校図書館メディアを構築するために必要な知識・技能について学ぶことをねらいとする。</p>	<p>「学び方を学ぶ」学校教育のあり方が問われています。学校図書館は、生徒が学び方を考えるためだけに活用されるものではなく、教員が学びをつくるうえで、教材研究や教具作成にも役立つように、校内の「学習センター」、「情報センター」としての機能を整えておく必要があります。司書教諭（学校司書）として、理論と実践を考究し続けたい思いをもったみなさんの受講を期待します。</p>
到達目標	<p>1) 毎時間の学習内容について、要点（又は自身が抱いた疑問点、興味・関心）を整理し説明することができる。 2) 学校図書館メディアの種類と特性を理解することができる。 3) 学校図書館メディアの整備と運用、維持・管理に必要な組織化の技術・手法を習得することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) ガイダンス：授業内容（学校図書館の役割とメディア）、授業の進め方、評価等について	シラバスを読み授業に備える
	2	(特) メディアの種類と特性(1)：印刷メディア（図書、逐次刊行物、レファレンス資料等）	参考資料①の事前確認
	3	(特) メディアの種類と特性(2)：視聴覚メディア、電子メディア等	「学校図書館メディア基準」の確認
	4	(特) メディアの種類と特性(3)：特別なニーズに対応したメディア	参考文献②の第1章及び第2章
	5	(特) 学校図書館メディアの選択：ディア収集方針、メディア選択のためのツール	参考文献③
	6	(特) メディアの組織化：目録法解説（目録の意義、目録作業の概要、学校図書館における目録）	参考文献④
	7	(特) メディアの組織化：目録法演習(1)（日本目録規則(NCR)を用いた演習を行う）	NCRを用いた演習
	8	(特) メディアの組織化：目録法演習(2)（日本目録規則(NCR)を用いた演習を行う）	NCRを用いた演習
	9	(特) メディアの組織化：分類法解説（分類の仕組み・種類、分類作業の概要）	参考文献⑤
	10	(特) メディアの組織化：分類法演習(1)（日本十進分類法(NDC)を用いた演習を行う）	NDCを用いた演習
	11	(特) メディアの組織化：分類法演習(2)（日本十進分類法(NDC)を用いた演習を行う）	NDCを用いた演習
	12	(特) メディアの組織化：件名法（件名法の解説と演習）	参考文献⑥
	13	(特) 情報ファイルの構築と提供	情報ファイル構築演習
14	(特) 学校図書館メディア構築の実際：払出し（廃棄、除籍）、更新（蔵書点検）	参考文献⑦	
15	(特) 学校図書館メディア構築と提供：装備、排架、サイン表示	図書への装備演習	
16	(特) 当日レポート試験	試験の振り返り	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは指定せず、プリントを配付します。また、以下の参考文献を挙げておきます。 ①平成28年度「学校図書館の現状に関する調査」の結果（文部科学省ウェブサイト）、2018年3月20日現在参照可能。 ②『一人ひとりの読書を支える学校図書館』野口武悟編著、読書工房、2010年、2,000円（税別）。 ③『学校図書館メディアの選び方』高橋知尚著、全国学校図書館協議会、2012年、800円（税別）。 ④『日本目録規則』（1987年版改訂3版）日本図書館協会編、日本図書館協会、2006年。 ⑤『日本十進分類法』（新訂10版）もり・きよし原編、日本図書館協会、2014年。</p>		
学びの手立て	<p>1) 4月に開催される「学校図書館司書教諭課程オリエンテーション」に必ず参加し、司書教諭科目の取得方法、履修の順序などを確認した上で履修してください。 2) 「メディアの組織化」の講義内容にかかわり、図書館4階学習室で授業を行う場合があります。別途講義内でも連絡します。 3) 演習課題に取り組むことが多々ありますので、積み残しの無いよう学修してください。 【参考文献の追記】 ⑥『基本件名標目表』（第4版）日本図書館協会件名標目委員会編、日本図書館協会、1999年。 ⑦『その蔵書、使えますか？』竹村和子著、全国学校図書館協議会、2012年、800円（税別）。</p>		
評価	<p>1. 当日レポートへの記述 30%（到達目標1・2・3の評価） (1) 授業内容に関するリアクションペーパー 15% (2) 演習問題 15% 2. 最終試験 70%（到達目標2及び3の評価） (1) 学校図書館メディアの種類と特性に関する事項 10% (2) 分類に関する事項 25% (3) 目録に関する事項 25% (4) 装備に関する事項 10%</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本科目は、司書教諭資格「読書と豊かな人間性」や「学習指導と学校図書館」、及び「情報メディアの活用」科目の学修を深めるうえで、前提となる科目です。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報メディアの活用	後期	水 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	吉田 肇吾	3年	yoshida@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>新しい教育内容と方法を踏まえて、学校図書館の資料・情報環境の整備把握し、さらに司書教諭の新しい役割について、より実務レベルで具体的に総括する。また、情報機器を使用した演習課題を通して、学校図書館における実務的な知識と技能を身につける。</p>	<p>社会変化に伴い、新しいメディアが学校図書館にも導入されつつある。それらをどのように授業で活かしていくか、「読書推進」だけではなく新たな捉え方で、学校図書館の機能・役割を概観し、また先進的な試みを導入している事例を紹介する。</p>
到達目標	学校図書館のコレクション構成をどうするか、情報機器環境の整備などと合わせて検討できるようにする。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特)オリエンテーション：科目内容の説明	シラバスを読み授業に備える
	2	(特)情報メディアの発達と学校図書館	第2～15週：関連テキストによる内容把握と同時に、図書館が作成・配布している学校図書館資料について
	3	(特)学校でのメディア教育・図書館教育の観点	も内容を把握し作成してみる
	4	(特)情報社会の学校図書館	
	5	(特)情報教育と学習指導要領	
	6	(特)学習活動とインターネット	
	7	(特)司書教諭の実務的役割 1	
8	(特)司書教諭の実務的役割 2		
9	(特)司書教諭の実務的役割 3		
10	(特)学校図書館資料の各種選択基準		
11	(特)教育用ソフトウェアの内容と選定基準		
12	(特)学校図書館メディアと著作権 1		
13	(特)学校図書館メディアと著作権 2		
14	(特)学校図書館関係資料 1		
15	(特)学校図書館関係資料 2		
16	(特)試験		
テキスト・参考文献・資料など	『情報メディアの活用』同編集委員会編 全国学校図書館協議会 2011 (シリーズ 学校図書館学 5) 「学校図書館・司書教諭講習資料」第6版 全国学校図書館協議会編 全国学校図書館協議会 2009		
学びの手立て	学校図書館で役立つ資料作成もおこなうため、情報機器の操作方法については習得していることを前提とする。		
評価	平常点：各回の課題レポート（40%）及び期末レポート＋課題作成（60%）による総合的評価とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 司書教諭課程の「学校経営と学校図書館」「学校図書館メディアの構成」「学習指導と学校図書館」「読書と豊かな人間性」
-------	---

※ポリシーとの関連性 司書教諭資格取得のための必修科目です。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	読書と豊かな人間性	前期	金 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-田名 洋子	3年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	近年、子どもの読書の重要性が注目されており、多くの自治体において「読書推進計画」が策定されている。それらの計画書で大きな役割を期待されているものが学校図書館であり、その専門職員である司書教諭である。本授業では、学校教育としての読書推進活動の内容と、司書教諭の果たすべき役割を理解することを目的とし、読書指導の内容と方法について実践的に学習する。	司書教諭の資格は、教科を問わず取得することができます。現代ではどのような教科でも図書館活用が求められており、この授業で取り上げる読書活動・指導についても、すべての教員が担う必要があります。教職を真剣に目指している人にはぜひ受講してほしい科目です。
到達目標	①読書の意義、子どもの読書の必要性、子どもの発達との関係について正しく理解し、周囲の人々に説明できる ②幅広い読書材とそれぞれの読書指導上の効果を、多様な視点から理解することができる ③ブックトークの実践を通して、読書指導のスキルを身につける	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスを読み、授業にそなえる
	2	現代における読書の意義	児童書を50冊読む
	3	児童青少年の読書	児童書を50冊読む
	4	読書と子どもの発達	児童書を50冊読む
	5	読書材の選択と提供、読み聞かせ	中学生向けお勧めチラシの作成
	6	読書のすすめと指導・ストーリーリング	中学生向けお勧めチラシの作成
	7	中学生におすすめの絵本3分間プレ	お勧め絵本3分間スピーチ原稿作成
	8	読書のすすめと指導・ブックトーク	ブックトークのシナリオ作成
9	学校における読書	ブックトークのシナリオ作成	
10	読書と青年期の成長・学習と読書	ブックトークのリハーサル	
11	中学生と読書	ブックトークのリハーサル	
12	ブックトーク実践①(試験)	ブックトークの感想レポート作成	
13	ブックトーク実践②(試験)	ブックトークの感想レポート作成	
14	ブックトーク実践③(試験)	ブックトークの感想レポート作成	
15	生涯学習への読書・司書教諭の役目	ブックトークの感想レポート作成	
16	授業のまとめ・課題提出		
テキスト・参考文献・資料など	1回目の授業で説明します。		
学びの手立て	①出席日数が3分の2に満たない者には、原則として単位を与えない。 ②実習的な要素を取り入れるので、人数制限があり、4年生を優先する。		
評価	・平常点 80点(中学校でのブックトーク実習の到達度) ・レポート点 20点(授業時間中の発言、発表に向けての準備、感想レポートなどを総合的に評価する)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 この科目は司書教諭科目のまとめの科目として位置づけられています。今後は、書店に行った際などに、児童書などの読書材の出版状況を注視し、知識を蓄えて、資格を学校現場で生かしていきましょう。
-------	---